

四日市タグサービス株式会社 設立趣意書

四日市港は、我が国有数の石油化学コンビナートを擁するエネルギー供給基地として、また、完成自動車やコンテナ貨物、バルク貨物を扱う港として、背後圏産業を支える重要な役割を担っています。

さらに、霞ヶ浦地区では、コンテナ貨物の増加や船舶の大型化への対応、完成自動車やエネルギー関連貨物の増加に伴う岸壁の混雑解消のため、新たな岸壁整備が進められているなど、今後もエネルギー関連貨物を輸送する大型危険物積載船とコンテナ貨物等を輸送する大型貨物船の入港が見込まれています。

四日市港が、今後も引き続き、国際競争力を維持し、背後圏産業の発展を物流面から支えていくためには、大型船が入出港する際に「希望する時間・場所」に「希望する性能・隻数のひき船」を24時間365日の対応体制で、ひき船サービスを提供していくことが不可欠であり、また、地震津波発生時に、港の機能保全及び市街地に対する防災面を考慮し、大型危険物積載船の迅速な出港が可能となるよう四日市港内に少なくとも複数の地元事業者が中心となる4隻のひき船が常駐する体制が必要です。

四日市港管理組合所有のひき船「ちとせ丸」は、この港内常駐4隻体制の一翼を担うとともに、消防設備や流出油対応設備等の防災設備を有し、四日市港、及びその周辺海域において、海洋汚染や海上災害が発生した場合には、関係行政機関等と連携して防災活動を行う初動対応船艇として迅速な対応を行っています。

一方、国内主要港においては、ひき船の運営について、平成20年代に相次いで民間活力の導入が進み、現在では、港湾管理者が直営でひき船運航サービスを提供している港湾は、四日市港のほか、主要港では1港のみとなっています。

このような状況を踏まえ、四日市港管理組合のひき船事業についても、行政改革の一環として、民間活力の導入を進めていくこととしたところです。

この民間活力の導入にあたっては、四日市港が、今後も引き続き、自立的で、かつ良質で安定的なひき船サービスを提供できる体制を維持するため、「四日市港を拠点とする地元の複数事業者体制の維持」、「四日市港のサービス水準を維持し、事業を恒久的に継続すること」、「離着岸以外の公的な業務を引き続き担ってもらうこと」、「公平で透明かつ適切な料金水準を維持してもらうこと」を担保したうえで、将来的には民営化も視野に入れつつ、当面は、運航の外部委託化を行っていく方針を決定したところです。

これを受け、四日市港で「ひき船サービス」の提供を受ける船舶代理店が中心となり、地元金融機関や地元港湾関係団体と港湾管理者である四日市港管理組合がともに、今後も四日市港の国際競争力維持と地域経済の発展、背後圏産業と背後住民の安心・安全を確保していくため、ひき船運航事業と防災業務等の公的業務を担う四日市港唯一の会社を設立することとしました。

2023年10月吉日

四日市タグサービス株式会社

上野マリタイム・ジャパン株式会社 代表取締役 上野 孝

コスモ海運株式会社 代表取締役 萱場 道仁

株式会社三十三銀行 代表取締役 渡辺 三憲

株式会社百五銀行 代表取締役 杉浦 雅和

四日市港運協会 会長 小林 長久

四日市港管理組合 管理者 三重県知事 一見 勝之

四日市ポートサービス株式会社 代表取締役 後藤 孝富